



令和6年度 臨時号

祥豊だより



TEL 075-691-2486

ひとりひとりの児童が活躍する学校づくり

～ 学校・保護者・地域が承認・心つながる学校を目指して ～

「心」も「環境」も

京都 “1” 美しい学校

令和6年10月4日

京都市立祥豊小学校

校長 森口 光輔



積極的に
配信中♪

令和6年度 全国学力・学習状況調査の結果

4月18日（木）に、本校6年生を対象に実施された「全国学力・学習状況調査」について結果がまとまりましたのでお知らせします。本調査は、国語科・算数科の2教科と同時に、家庭での過ごし方や学習時間を問う調査も実施されています。国語科・算数科の結果概要と児童質問紙調査の結果から生活習慣と学力との関係など、本校の子どものたちの状況をお伝えします。



国語科より

全体の正答率は全国平均を上回っています。分類別に見てみると、【話すこと・聞くこと】及び【書くこと】では、全国平均を上回っており、「目的や意図に応じて話題を決めること」「資料を活用しながら自分の考えを相手に伝えるよう表現を工夫すること」「集めた材料を分類・関係付けをして伝え合う内容を検討すること」などが理解できていました。自由進度学習やペア・グループでの話し合いなどで、自分の考えを明確にし、友達の意見を受け入れながら自分の考えを再構築する学習活動の積み重ねの成果が表れていると考えられます。また、【記述式の問題】では全国平均を上回りました。国語科をはじめ、いろいろな教科学習の中で、自分の考えやふりかえりをまとめたり、構成を考えて文章にしたりしています。そのような経験を増やし、あきらめずに最後までまとめる力をこれからもさらに身に付けてほしいと思います。

一方で、【言語文化に関する事項】については、無回答も含め、全国平均を下回ってしまいました。「日常的に読書に親しみ、読書が自分の考えを広げることに役立つことに気付くこと」は、日頃の読書習慣が大きく関係していると考えられます。「読書が好き・本を読みたい」という思いや、読書の量・質を向上させていけるように、学校では図書委員会の自主的な活動を中心に、教職員による読み聞かせや月に1回の企業の移動図書館との連携、図書館司書を中心とした学校図書館の環境整備など、いろいろな工夫を凝らしています。また、ICT機器活用と併用して、読書に向かう時間を学校でも設けていきます。ご家庭でもぜひ、読み聞かせや図書館に出かけるなど、時間を決めて読書に親しむ機会を設けてみてください。

また、「漢字を使って書き直す問題」では、若干弱さが見られました。漢字ドリルやミライシード、国語科の小单元などで漢字を定着させる指導はしていますが、「文字の意味を考えながら」「形をとらえて」「力を入れて」などを意識しながら、丁寧に時間をかけて、日頃の「書く」活動全てや家庭学習での漢字の練習に取り組むことが、習得率の上昇につながっていくと考えられます。



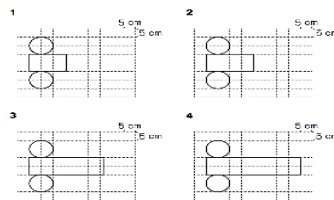
算数科より

全体の正答率は全国平均を上回っています。ほとんどの領域、観点別、問題形式で、概ね全国平均を上回っていましたが、設問3「(2) 直径の長さ、円周の長さ、円周率の関係について」において、全国平均を少しだけ下回っていました。

円柱の展開図から、側面にあたる長方形の大きさが正しいものを選ぶ設問で、「直径」の3.14倍（3倍より大きく4倍より小さい）であることに注目することが大切です。「直径」や「半径」がどこからどこまでの長さを示しているのかをしっかりと理解し、相手に説明できるようにすることが大切です。自分が考えたことを相手に伝える経験を増やしたり、「なぜそうなるのか」を問い返したりする力を身に付けることができるように、日頃の授業の中で、自分の考えをしっかりと表し、友達との話し合いを通して理解を深める『協働的な学び』を進めていますが、さらに機会を増やし工夫していきたいです。

また、【A 数と計算】の設問では、全国平均は上回っているものの、若干弱さが見られました。文章に書かれていることがどの式を意味しているのかを読み取る力が弱かったり、自分の考え（式）を言語化することが苦手だったりする様子が見られ、じっくり文章を読み取る力や説明する力を身に付ける経験を増やしていきたいです。

また、【A 数と計算】の設問では、全国平均は上回っているものの、若干弱さが見られました。文章に書かれていることがどの式を意味しているのかを読み取る力が弱かったり、自分の考え（式）を言語化することが苦手だったりする様子が見られ、じっくり文章を読み取る力や説明する力を身に付ける経験を増やしていきたいです。

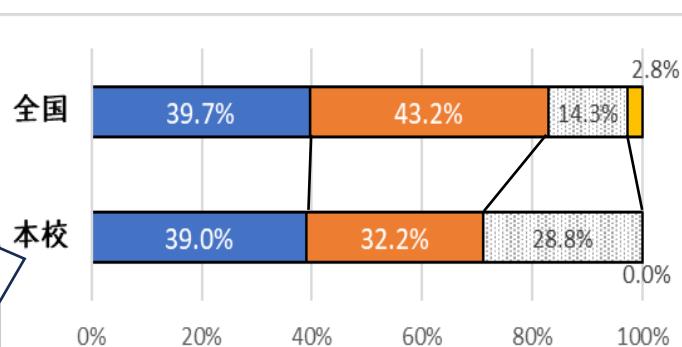


児童質問紙より①

Q. 毎日、同じくらいの時刻に寝ていますか。

	している	どちらかといえば している	あまりして いない	全くして いない
全国	39.7%	43.2%	14.3%	2.8%
本校	39.0%	32.2%	28.8%	0.0%

「早寝早起き朝ご飯」の中で、生活環境が一番影響を与えるのが「就寝時間」です。TV やスマホ、タブレットなど、使用時間の約束を決め、やるべきことをして早く寝る習慣を家庭全体で取り組むことで、健康な体づくりができます。

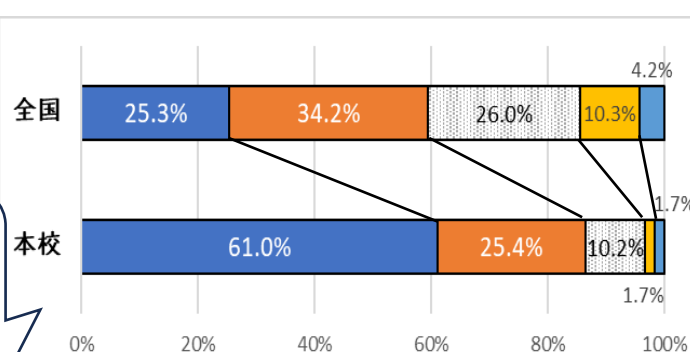


児童質問紙より②

Q. 5年生までに受けた授業で、PC・タブレットなどの ICT 機器を、どの程度使用しましたか。

	ほぼ毎日	週3回以上	週1回以上	月1回以上	月1回未満
全国	25.3%	34.2%	26.0%	10.3%	4.2%
本校	61.0%	25.4%	10.2%	1.7%	1.7%

授業や家庭学習で、ICT 機器を効果的に活用することで、教科内容の理解度や関心度が高まります。視覚的な資料の作成、スピーディーな双方向の交流など、これからも個別最適・協働的な利活用を進めていきます。

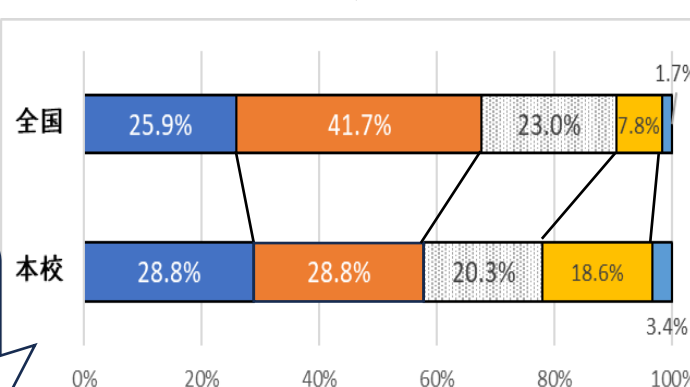


児童質問紙より③

Q. 5年生までに受けた授業で、自分の考えを発表する機会では、自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組立てなどを工夫して発表していましたか。

	発表していた	どちらかといえば発表していた	どちらかといえば発表していなかった	発表していなかった	考えを発表する機会がなかった
全国	25.9%	41.7%	23.0%	7.8%	1.7%
本校	28.8%	28.8%	20.3%	18.6%	3.4%

まず、「自分の考えを相手に伝えようとする」ことが大切です。自分の考えをアウトプットし、相手の考えと比べることで、自分の考えを再構築し確かなものになります。ペアやグループなど自信をもって発表する場を授業の中で多く取り入れていきます。



成果と課題

国語・算数の正答率は、全国平均よりも上回りましたが、児童質問紙の結果は、全国平均を下回る項目があり、特に「1. 当てはまる」と自信をもってはっきり答える子が全国平均に比べて少ないことが気になります。様々な教育活動で子どもたちの自己有用感を高めていき、学習内容の基礎基本を定着させるとともに、人との関わりを意識し大切にする取組などを通して、これからの社会を生きるための子どもたちの資質・能力を育てていきたいと思ひます。

全国学力・学習状況調査は、子どもたちの学習状況を知り、力をさらに伸ばしたり、課題を解決したりしていくためのものであり、日々の積み重ねで学力は定着していきます。今後も学校教育目標実現のために、教職員一同、一致団結して取り組んでいきたいと思ひます。学校・家庭・地域が一体となって協力し、子どもたちの健やかな育ちと学びの環境づくりにご協力をお願いいたします。